

地方都市の交通問題の課題と対策

チーム和洋折衷 C1251550 柴田あすみ

A) 他チームの話を聞いて

自チームと比較し、自分たちにはなかった視覚や聴覚を頼りにした解決策を挙げていた2班の発表がとても印象に残っている。その具体的な案としてレインボーロードが提示されていた。これは、事故が予想される危険なカーブや交差点の道路の一部を光らせるとともに音も発するというものである。効果としては、光や音によって注目を寄せ、運転が自然と注意深くなることが期待されるという。これまでは、歩行者やドライバーの意識を変えることを重点において考えていたが、人の視覚や聴覚などの感覚を利用した考え方もあるのだととても参考になった。コストはかかってしまうが、人間の潜在能力を利用しているため、現実的な考えだと思った。一方で、自分の考え方と似ていると感じたのは44班の発表である。自転車ドライバー目線で解決策を考えているが、ただ意識改革を図るのではなく現状の課題やインフラ整備の面から、個人でできること・行政でできることなど項目を分けてそれぞれ解決策を考えている点が良いと感じた。他にもバスの利便性や利用を高めるために仮想通貨を導入する案や免許返納を促進し、サービスの向上を目指す案など新しい視点で見ることができ、学びが深まるような有意義な発表であった。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

授業を通じて、地方都市における交通の問題を総合的に解決するためには行政とも連携し、意識改革ではなく実践的に取り組むことが重要だと考えた。事故を減らすために呼びかけを強化したり小学校や中学校での交通安全教室を実施したりすることは大切であるが、講習を受けるだけではそこで学んだ力を十分に発揮することはできず、事故の減少はそれほど期待ができない。しかし、上記にもある通り光や音を利用したレインボーロードを導入したり講習のみではなく実技を追加したりなど、実際に自分で体験できるような取り組みが必要だと考えた。実践することで感覚が身に付き、運転するときに思い出すドライバーが増えると考えた。しかし、講習のみだと人件費しかコストがかからないのに対し実践は場所の確保や必要な道具の準備コストもかかってしまうため、時間と費用の確保が必要になってくる。ゆえに、行政と住民が連携して積極的に協力することで円滑に進めることができると思った。また、バスの利便性の向上についてはバスの利用者が少なく、ドライバーの人件費削減のため本数が少なくなるという悪循環が発生していることが課題である。この現状を解決するために高齢者の免許返納を促しバスの高齢者の利用を増やすことが挙げられる。免許返納をすれば、高齢ドライバーの事故を減らすことができると同時にバスの利用者の確保もできると考えた。さらに免許返納を促すために、町の商店街で使える商品券などのサービス券を免許返納者に配布したり

バスの回数券を配布したりなど特典を付与することで公共交通機関の充実だけでなく、街の活性化にもつながり好循環になると予想される。この対策案は準備するものは主に紙資源となるが、行政や商店街を運営する住民の同意や協力が必要なうえ、主催する団体の手厚い援助がなければ成立しないため開始するには時間がかかってしまう。行政の独自の判断で実行するのではなく住民も巻き込むことで、積極的に参加してくれる人が増え地方都市の交通問題が解消するためのひとつの手がかりになると考えた。しかし、どちらの解決策もすぐに実施できるものではなく、膨大なコストや人材、様々な企業の協力がなく成り立たない事業であるため実施が困難である。ゆえに、まちの魅力を他地域にも伝え地域人口を増やすことが地域財源を増やすことに繋がり、地域都市の交通問題を解決することにもつながると考えた。交通問題は人の命にも関わる大きな問題であるので、行政が中心となって積極的に資金を出し、解決に向かうことが大切だと思った。また、交通問題は利用者である私たち住民が一番関係のある事象であり、住民の協力も必要不可欠であるので住民に対して納得のいく説明をすることや住民のメリット・デメリットを伝え、相互に同意の上、進めていくことが大切である。地域都市の交通問題を総合的に解決することはとても難しくすぐに実行できるものではないが、行政や地域住民、企業などの協力があれば実現できることであるので、多くの人力を借りることも大切だと思った。私自身も今自分が住んでいる地域の交通問題を解決するために現状から課題を発見し利用者・住民目線からできることは何かを熟考して、積極的に問題解決に貢献していきたい。